

みんなの がっこうの どうぶつ

特集「高病原性鳥インフルエンザ」

2017年12月中旬
資料特集号

発行：公益社団法人 栃木県獣医師会 学校飼育動物支援委員会



平井局長！
今年の冬も、鳥の飼育が心配です。
高病原性鳥インフルエンザについて
分かりやすく教えてください。



インフルエンザ（以下、「インフル」）の季節になりました。高病原性鳥インフルに関するご質問をいただきますので、解説いたします。



【キーワード】

インフルはウイルスによって起こるほ乳類や鳥類の疾病ですが、このうち鳥のものを鳥インフルといい、病原性の違いにより高病原性や低病原性などに分類されます。ニュースになるのは高病原性ですね。インフルウイルスは型により感染しやすい動物種が異なりますので、鳥のウイルスがヒトに感染することはまずありません。

“種の壁”といいます。卵や鶏肉で感染することはありませんし、日本では生きた鳥からの感染も報告されていません。先日も、島根県で野鳥から高病原性鳥インフルウイルスが分離されたとの報道がありました。国をあげて対策をしているのは養鶏業を守るためです。各学校では、毎年1回、家畜伝染病予防法に基づき「鳥飼育の定期報告」をなさっておいでと思いますが、これも“家畜”を守るためです。ですので、一般の方々は必要以上に神経質になる必要はありません。

シベリアや近隣諸国では鳥インフルウイルスが常在状態ですので、主に渡り鳥により日本に持ち込まれます。我が国では数年に一度は昨年のように国内で大きな発生がありますが、現在は清浄国であり、これを維持するために野鳥等からウイルスが発見されれば緊急に対策がとられます。

- ✓ 「高病原性」や「低病原性」などに分類
- ◇ 病原性と伝染力はイコールではない

- ✓ 「種の壁」
- ◇ 卵や鶏肉からの感染はない
- ◇ 鳥からヒトへ感染することはまずない

- ✓ 国をあげて対策をしているのは養鶏業を守るため

- ✓ 渡り鳥により日本に持ち込まれる

- ✓ 日本は、現在、清浄国

これまで国内の野鳥では、水禽類（カモなど）や猛禽類（ハヤブサなど）でウイルスが分離されています。スズメやカラスはあまり心配することはありませんが、一度に10羽以上が死亡して落ちているようなことがあれば、家畜保健衛生所に相談するとよいでしょう。

これまでのことから判るように、学校の鶏舎では鶏と野鳥を接触させないことが重要です。金網の点検をお願いします。鶏舎の周辺にエサとかこぼれていませんか、野鳥が寄ってくるかもしれません。児童の皆さんには、専用の履き物とか手洗いとか一般的な衛生対策を教えてください。鳥インフルは正しく理解すれば、それほど心配する必要はありません。生き物とのふれ合いは、児童にとって大きな財産となります。



（公社） 栃木県獣医師会 事務局長 平井清司

【略歴】

平井清司 （（公社） 栃木県獣医師会事務局長）

元栃木県県央家畜保健衛生所長

長く、栃木県の家畜保健衛生行政に携わり、ヒトと動物に関わる伝染病（高病原性鳥インフルエンザなど）の監視、防疫、保健衛生指導に従事し、退職後、現職。

- ✓ スズメやカラスはあまり心配することはない
- ☆ 10羽以上が死亡して落ちている時は保健衛生所に相談
- ✓ 学校の鳥を、野鳥と接触させないことが重要
- ✓ 児童の皆さんにも一般的な衛生対策を教える



小山市内の小学校で飼育されているニワトリ

【参考資料】

[農林水産省の通知\(2017年11月9日\)](#)

[環境省の高病原性鳥インフルエンザに関する情報\(2017年11月24日まで\)](#)

[\(公社\)栃木県獣医師会 学校飼育動物ニュースレター「鳥の飼育・この冬注意すべきこと」](#)

小学校の子供たちに対する配慮

「今、学校にいる鳥たちは元気だから、病気になるないようにしっかりと世話してあげましょうね」

と声をかけてください。



公益社団法人 栃木県獣医師会
学校飼育動物支援委員会

〒320-0032
栃木県宇都宮市昭和1-1-23
☎0286(22)7793 Fax0286(21)9660